

顔半分が動かない…タレントの IKKO さんを 襲った顔面神経麻痺 早期治療がカギ

美容家でタレントの IKKO さん（64）が昨年 11 月中旬から顔面神経麻痺（まひ）で 2 週間ほど入院した、とインスタグラムで報告していました。最初「目がしみる」という感覚があり、その後、他人から「顔の半分が動いていない」と指摘され受診したとのこと。顔面神経麻痺にはどのような原因があり、予後はどうでしょう。

61 歳男性 A さんは、ある朝、何の兆候もなく歯磨き後に口をすすいでいると左口角から水がこぼれます。せっけんで顔を洗うと左目がしみます。鏡で自分の顔を見ると、左目のまばたきがうまくできず、左だけ口角がたれ、額にしわがよりません。

家人を呼ぶと脳梗塞ではないかといわれ、緊急で総合病院を受診しました。幸い MRI では脳に異常はありません。その後、耳鼻科でベル麻痺と診断され、ステロイドの内服治療を受け 1 カ月ほどで症状は消失しました。

顔面神経は左右一対ある脳から直接出る神経（脳神経）です。耳の内側で頭蓋骨内の狭い通路を通して頭の外に出て、耳の前にある耳下腺の間を通り顔面全体に分布します。その機能は 20 以上ある顔の表情をつかさどる表情筋を動かし、涙や唾液の分泌や舌の前 3 分の 2 の味覚に関係します。

■食事すると目から涙…

顔面神経麻痺でよくある症状は、目が閉じにくく、麻痺側の表情やしわがなくなり、顔半分がまがってみえます。口唇・口角の動きが悪くなり口から空気がもれてしゃべりにくく、口角が下がり水や食事が口からもれます。これ以外にも麻痺側の聴覚が過敏になり音が大きく聞こえたり、舌先の味覚がなくなったりします。

顔面神経麻痺は、脳梗塞など脳の障害でも（中枢性）、顔面神経がウイルス感染などで障害されても（末梢（まっしょう）性）起こります。末梢性が圧倒的に多いのですが、念のため MRI などでも脳梗塞がないことを確認することがあります。患者数は 10 万人あたり年間 50 人ほどで、男女差はなく、発症年齢は 40～60 代が多いのですが、最近は高齢者が増えています。

顔面神経麻痺の 6〜7 割は、口唇ヘルペスの原因である単純疱疹（ほうしん）ウイルスの再活性化で発症するベル麻痺です。ベル麻痺の予後は比較的良く、早期に治療すれば 9 割は完全回復します。ただし、高齢者や味覚障害・完全麻痺があると予後は不良です。発症誘因に疲労や風邪がありますが、多くは何の誘因もなく突然発症します。

2 割ほどは帯状疱疹を起こす水痘帯状疱疹ウイルスの再活性化で発症します（ハント症候群）。ハント症候群の方が重症で治りにくいといわれています。ハント症候群では顔面神経麻痺に加え、痛みや耳介を中心に帯状疱疹を認めます。

治療はステロイド投与で、できるだけ早期に開始した方が予後は良くなります。ベル麻痺で重症な場合とハント症候群に対しては抗ウイルス薬を追加します。

主に重症な場合ですが、ベル麻痺の 1 割とハント症候群の 3 割ほどで 1 年たっても麻痺が一部残ったり、病的共同運動が出たりします。神経が障害された後、回復途上に誤って他の神経とつながり再生するためです。例えば、食事すると目から涙が出るといった症状があります。後遺症を残さないように顔面神経麻痺の症状が出たらすぐに専門医を受診しましょう。